【調査研究報告　調査研究Bチーム】

研究テーマ

「探究的な学び」を支える教師の学び

研究の要旨

第４次長野県教育振興基本計画では、長野県教育の目指す姿を「個人と社会のウェルビーイングの実現～一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求できる「探究県」長野の学び～」と定めています。これまでも長野県の先生方は総合的な学習・探究の時間を中心に、子供が自ら問題発見し、解決に向けて追究する学びが連続していくことを大切にしてきました。

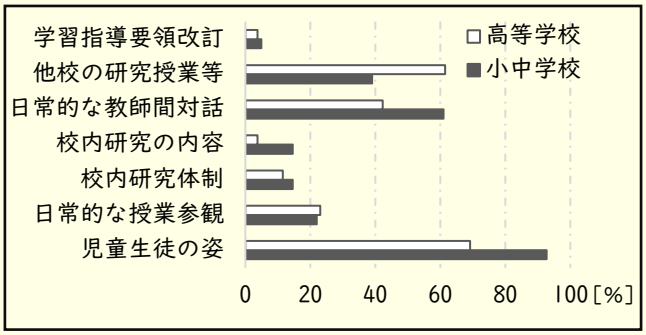
本研究チームでは、各教科等のねらいに向かい、子供が自ら問題発見し、解決に向けて追究する学びが連続していくことを「探究的な学び」と捉え、総合的な学習・探究の時間だけでなく、各教科等においても探究的な学びを実現しようとしている取組について調査を進めてきました。そして、児童生徒の探究的な学びを支えていくためには、職員間の豊かなつながりと教師の探究的な学びが大切であることが見えてきました。

越智（2023）※は、実践は、一人で生み出すというよりも、実践共同体の中で育まれ、共に切磋琢磨する中で磨かれるもの、と述べています。そこで、職員間のつながりが個々の教師にどのように影響を与え、児童生徒の探究的な学びを支えることにつながるのか、考えていきます。

１　教職員のつながりが個々の教師の探究を支える　～授業観の更新～

【１】子供主体の授業へと意識が変わったきっかけ

研修講座「総合的な探究の時間　基本」
「総合的な学習の時間　基本」受講者対象アンケート



「子供の学ぶ姿を振り返り、教えるのみの授業ではダメだと痛感した」「教科会で複数の教員で一つの授業を構想した時は、授業後に情報交換するようになり、授業観が変わっていった」という意見もありました。

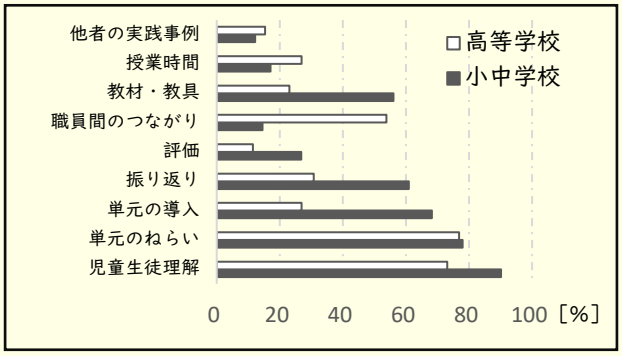
児童生徒の学びの姿をきっかけとして、授業参観や授業研究会などでの対話によって教職員がつながり、教師の授業観の更新を促すことが見えてきます。

２　教職員のつながりが教師の探究を支える　～単元等のまとまりを見通した実践を促す～

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編には、「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることを示した。」とあります（p.4）。また、資質・能力の育成に向け、教科等横断的な視点をもちつつ、学年相互の関連を図りながら各教科等の教育の内容を組織する必要があるとされています。

【２】子供主体の授業づくりで大切だと考えていること

研修講座「総合的な探究の時間　基本」
「総合的な学習の時間　基本」受講者対象アンケート



授業づくりにあたり大切にしていることとして「単元のねらい」「児童生徒理解」を考えている先生方が、校種を問わず多いことが分かります。単元のねらいを明確にして授業を構想することは、単元等のまとまりを見通すことにつながります。対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか等、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいることが分かります。

その際、教職員のつながりが充実していると「単元のねらい」「児童生徒理解」について多面的・多角的な検討が進み、単元等のまとまりを見通した支援や授業構想が行われやすくなると期待できそうです。

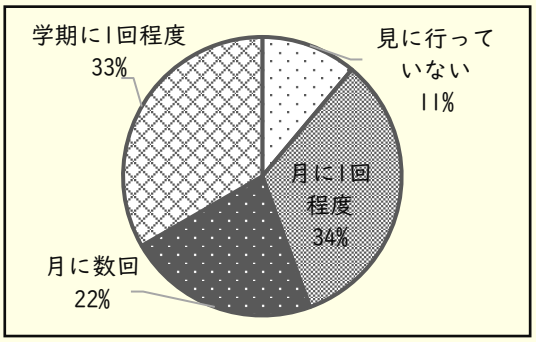
※越智康詞(2023)「組織改革の視点から見た『学級担任制』から『学年担任制』への転換の意味」『信濃教育』第1641号（令和５年８月）p.12-21

３　教職員のつながりが教師の協働的な探究を支える　～学校改革が進むＡ高等学校～

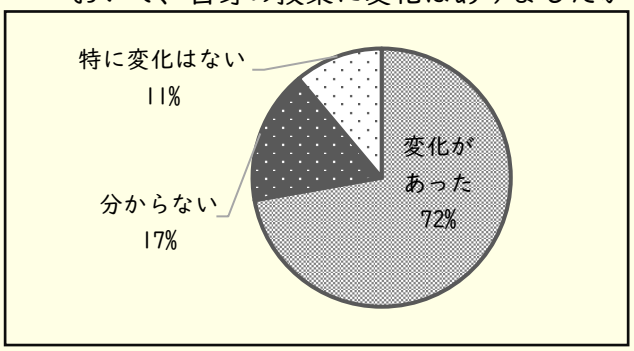
Ａ高等学校では、校内の先生の56%が、月に１回以上、他の先生の授業参観をしています【３】。５年前から学校全体で探究的な学びを推進しており、学校改革を推進していく過程で、校内の先生の72%がご自身の授業に変化があったと感じています【４】。

教師が協働し、改革を進めていったＡ高等学校の５年間を紹介します。

【３】校内の先生の授業を見に行く頻度



【４】全体で探究的な学びを推進していく過程において、自身の授業に変化はありましたか



５年前にＡ高等学校に赴任した校長先生は、「受け身な生徒が多く、自ら考える力をつけてほしい」と願い、学校全体で探究的な学びに力を入れることにしました。まず、校務分掌を見直し、係の役割を整理しました。そして、探究的な学びを推進する役割を学習指導係が担うと決め、係には各学年の先生が入るようにしました。

校長先生の願いに共感した係の先生方は、他校の先行実践を視察し、探究的な学びのあり方を探り、その過程で授業改善に率先して取り組みました。それによって生徒が変わり始めたことを感じた校内の先生方も、探究的な学びに力を入れるようになりました。

現在、教科の枠を超えて、授業づくりや生徒の学びの姿について語り合ったり、教科会で共通して使用できる教材を準備したりしているとのことです。

Ａ高等学校では、生徒の実態を基に管理職が示したビジョンとして、生徒につけたい力を明確にしました。係の取組を通して、次第に目指す生徒の姿やそこに向かうための授業のあり方が職員全体へ広まっていきました。係が協働して起こした探究的な学びの風は渦となり、大きく渦を巻く中で、職員のつながりがより豊かになっていったと言えそうです。

４　つながりが生徒の探究を支え、生徒の変容へ

Ａ高等学校は、地元企業や大学と連携した授業を実施しています。視察した先行実践から学び、「生徒が学校外とつながることができる環境を整えることが大切」と考えたからです。理数科では大学教授が関わる授業を実施し、獲得した知識や技能を活用して課題を解決し発表する場を設けています。

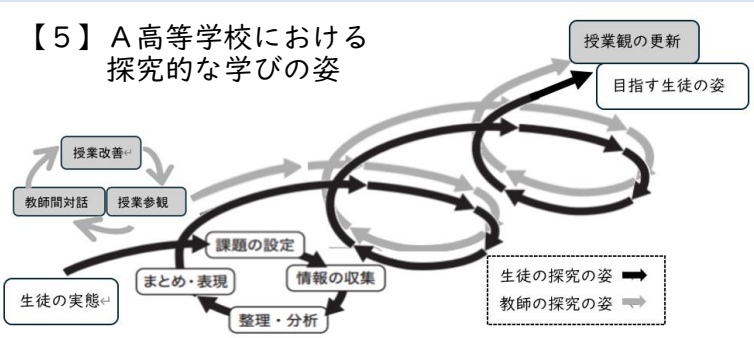
校長先生は、この５年間を振り返り「最近は人前で話すことに抵抗を感じる生徒は少なくなってきました。これまでより主体的になってきたと感じています。」とおっしゃいます。生徒の変化は進学率にも表れており、令和４年度末卒業生の約半数の生徒が国公立大学に進学しています。つながり合う教師に支えられた生徒が、多様な他者とつながることで、生徒の探究が支えられ、生徒の変容につながったのだと考えます。

教師が協働し探究的に学ぶ∽豊かなつながりの中で児童生徒が探究的に学ぶ

『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について（答申）では、「教師の学びの姿も子供たちの学びの相似形であるといえる。」とされ、教師自らが問いを立て実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく探究的な学びが必要だとしています。

つながりが個人を支え、教師の協働的な探究が児童生徒の探究的な学びにつながっていくと考えます。

【５】Ａ高等学校における探究的な学びの姿



図「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編」改

今年度は、子供の学びを支える教師に焦点を当てて調査研究を進めました。今後も、探究的な学びを推進している各校の実践に学んでいきたいと思います。